

うちの学校紹介

その18
塩田小学校



「地域に支えられて」

明治6年に開校した本校は、淡路市の最南端に位置します。校区は幕末の偉人高田屋嘉兵衛の築いた塩田港を玄関口とし、国道28号線が南北に2km余り通じ、漁業、農業、住宅地域に分かれています。全校生58名の小規模校ですが、その利点を生かしたきめ細かな少人数指導、環境体験、地域学習、縦割り班活動中心の学校行事を通して、子どもたちは純朴で互いを思いやり、日々のびのびと学校生活を送っています。

特に本校は地域の皆様のご指導の下、様々な体験学習を実施しています。絶

滅危惧種がたくさん生息する塩田干潟での環境体験学習、塩田漁港でのヒラメの稚魚放流、アナゴの畜養見学、圃場をお借りしてサツマイモ苗植えと収穫、田植えと稲刈りなどの農業体験、そして塩田公民館と一体になった運動会、納涼祭、文化発表会、地域防災訓練等々、地域に支えられた学校です。地域の方々に温かく見守られ、子どもたち一人ひとりをよく理解頂いていることにいつも感謝しています。またその安心感が子どもたちのやさしさと自尊心の基盤となっています。また、な

かよしウオーク、七夕集会、サツマイモパーティー、お楽しみ会、塩田カップドッチボール大会、学習発表会、書初め大会、大縄跳び大会などの縦割り行事を通して子どもたちは、学年をこえて互いを理解し、助け合いながら生活しています。人権学習では年2回情報モラル学習（親子、教

職員参加）、人権授業参観、福祉学習などを通して他者を思いやる心について学んでいます。

これらの地域ぐるみのふるさと学習や体験学習の一つ一つが、子どもたちのふるさとを大切にする心を育み、やがて社会に出る時の豊かな心、人を思いやる心を磨いていると確信しています。これからも地域と学校が一体となり、子どもたちのための原点に立つ教育活動に地道にこつこつ取り組んでいきたいと思えます。



サツマイモの苗植え



アナゴ畜養見学



学習発表会

支部活動 一宮支部活動

淡路市人権教育研究協議会一宮支部では、支部活動の一環として北淡支部との合同による視察研修を行いました。

今回の視察研修では、地域の歴史と人権のまちづくりについて学ぶため、7月23日加古川市でフィールドワークを実施しました。

最初に訪れた「鶴林寺」は、飛鳥時代、高麗から渡来した僧・恵便が住んだという伝承が残る寺で、聖徳太子にもゆかりがあるとのこと。播磨では朝鮮半島からの渡来人が暮らした跡や、交流を示すいろいろな遺物・遺跡が多くあるとのこと、寺に残る数多くの文化財が当時のたたずまいをしのばせています。

加古川駅近くにある「いろは食堂」で地元郷土食「かつめし」を堪能したあと、北別府公民館を訪れ、差別に苦しむ多くの人々が自ら差別撤廃のため立ち上がる契機となり全国的な運動に広がった「別府村事件」についてお話をいただきました。多くの逮捕者が出る結果となった事件でし

たが、今日、地域では先人たちの偉業・遺産を継承しながら、心を一つにして後継者の育成や新しいまちづくりに努めています。

その後一行は、別府村事件顕彰碑が残る墓地や被差別部落の人と地域の人が、ともに差別のない社会をめざして建立した記念碑が残る別府住吉神社を訪れ、差別に翻弄されながらも教育・文化の向上をめざし、地域が一体となってまちづくりを進めてきた長い歴史に思いをはせていました。



別府住吉神社にて